

■e-黒板ニュース（第11号）：「校内ネットワーク活用推進フォーラム」参加報告

前回の号外でお知らせした、「校内ネットワーク活用推進フォーラム」（東京）に参加しましたので、報告させていただきます。

このフォーラムは、第4号に掲載した「教育情報化推進協議会」がその設立趣旨に則った最初の活動でもあります。日本教育工学会（JAPET）主催、Sky株式会社協力による教員研修に、文部科学省および実施地域の都・県の教育委員会が後援して実施されています。文部科学省初等中等教育局の中川参事官が4会場（福岡、岡山、東京、仙台）すべてで基調講演をされています。

教育情報化推進協議会の活動テーマである「①パソコン・表示装置等の情報機器の整備、②地域公共ネットワークの整備、③施設内の校内LANの整備、④教育用コンテンツの整備、⑤教育情報化コーディネータ等による学校の情報化、並びに保守・運用支援」は、「e-黒板研究会」の目的・活動内容と密接なつながりがあります。

e-黒板研究会の会員は現在約150名ですが、このフォーラムのパネルディスカッションにコーディネーター・パネリストとして参加された（される）、8名の先生方のうち4名がe-黒板研究会に入会してくださっていることを力強く感じています。

そして、東京会場で、新たに2名のパネリストと2名の参加者にe-黒板研究会への入会をお願いし、了承を得ました。活動の輪をもっと広げるために、みなさんからもお友達等へのe-黒板研究会入会の呼びかけを、よろしくお願いします。（関）

今号の目次：

=====
1. 「校内ネットワーク活用推進フォーラム」参加報告
=====

お友達への再配信またはご紹介は、ご自由にどうぞ。また、配信中止のご連絡もお願いします。

会員の皆様からの投稿もお待ちしています。
宛先はいつでも ekokuban@cec.or.jp です。

e-黒板研究会のホームページ

<http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban>

をご参照ください。

e-黒板ニュースのバックナンバー等もご覧いただけます。

1. 「校内ネットワーク活用推進フォーラム」参加報告

8月27日（金）13:00から東京ファッションタウン（TFTビル）にて、日本教育工学会（JAPET）主催、Sky株式会社協力による情報教育対応教員研修全国セミナーの東京版「校内ネットワーク活用推進フォーラム」が開催されました。約80名の参加で、教員の方を中心に、教育関連企業・マスコミ関係者も参加されていました。基調講演を中心に報告します。

福岡（8月23日）、岡山（8月24日）に続く第3弾で、このあとは仙台（9月13日）が予定されています。プログラムの詳細は、
<http://www.skymenu.net/forum/tokyo.html>
を参照下さい。

(1) 基調講演

テーマ：「校内ネットワークの整備と活用に関する現状と課題」

講師：中川健朗氏（文部科学省初等中等教育局参事官）

○間違っていた先入観：私は今年から現職に就いたが、教育へのIT活用は、「ITに通じた特殊な先生方」の世界なのではないかという先入観があった。今年1月末のある成果発表会で25の事例発表があり、「ITを道具として、素晴らしい授業をされている」。それは、「血の通ったもの」「愛情あふれる教育」であることが分かった。私だけでなく、多くの人たちが間違っていた先入観を持っているのではないか。

○主役は「地域」：「地域が自ら考えて行動し、国はそれを適切に支援する」というのが原則。これは、情報教育でも同じ。「地域」は全国の教育委員会、「国」は文部科学省と読み替えることができる。

○危機感：「e-Japan重点計画」における「教育情報化」で2005年度までに実現するとして掲げた目標「学校のIT環境の整備」「IT指導力の向上」「教育用コンテンツの充実」が、昨年度末時点の「学校における情報教育の実態等に関する調査」
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/07/04072101.htm

では、その達成は困難な状況（赤信号）であることを示している。

特に、校内LAN整備は、37.2%という状況である。

「校内ネットワークは水道のようなものだ」という堀田龍也先生の表現を借りると、全国で約2/3（東京では約9割）の学校が水道のない井戸水を汲む生活をしているということになる。

○地域格差：校内LAN整備率では84.7%（岐阜県）と8.9%（東京都）のように10倍の開きがある。教育の機会均等という観点からも大きな問題点である。

- 情報モラル：中間報告を昨日（8月26日）プレス発表した。まもなく文部科学省のホームページで公開される。
情報化の「光」を知らない人（先生）が、「影」も知らない。それが問題である。
情報モラルサポートセンター
<http://sweb.nctd.go.jp/support/index.html>
- 教育の情報化の推進：「IT教育よりも、心の教育を」という投書があるが、そうではない。一般社会はすでに情報化が進んでいる。子どもたちは家に帰るとインターネットにアクセスする。学校だけが先生だけが情報化と無関係ではいられない。
- 教育情報推進協議会：7月27日設立。
ホームページは、
<http://www.eea.to>
- 教育情報ナショナルセンター（NICER）の紹介：
<http://www.nicer.go.jp/>

財政も厳しい。教育をとりまく環境も厳しい。民間も厳しい。しかし、2005年度の目標達成を目指して、危機感を訴えるだけでなく、われわれも汗をかいてみなさんと連携をとりながら頑張っていきたい。

- (2) パネルディスカッション
テーマ：「活用を支える校内ネットワークの在り方を考える」
コーディネータ：堀田龍也氏（静岡大学情報学部助教授）
パネリスト：成瀬啓氏（宮城県教育研修センター指導主事）
土田幹憲氏（札幌市立美しが丘緑小学校教諭）
高橋純氏（富山大学教育学部講師）

(堀田氏)

- 「ホワイトボード化する黒板」
- ますます充実するコンテンツ：NICER、NHK、教科書会社、教材会社によりますますコンテンツが充実してきている。教室で必要に応じてコンテンツを見せるには、校内ネットワークは水道みたいなものだ。安全な水が常に提供されることが前提である。
- 校内ネットワーク活用ガイドブック：
授業のイメージ、活用されているイメージが必要
- 本紹介：「学校のLAN学事始」
堀田達也・中川斉史（編著）、高陵社書店（発行所）

(成瀬氏)

- 学習の広がり 「使えば使うほど 楽くなる」
校務 「使えば使うほど 楽になる」
セキュリティ 「使えば使うほど 必要になる」

(3) 情報交換会

(4) 研究報告

- テーマ：「校内ネットワークの導入・利用モデル」
報告者：安達一寿氏（十文字学園女子大学社会情報学部助教授）
高橋純氏（富山大学教育学部講師）

会場で販売されていた「学校のLAN学事始」を購入しました。編著者の堀田先生、中川先生を含む25名の先生方が執筆され、文部科学省がまとめた「校内ネットワーク活用ガイドブック」作成のノウハウもこの本に活かしていることを知りました。「校内ネットワークを活用しよう！」調査研究報告書のページ
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/kounai/chousa.html
も見つけましたので、付記させていただきます。

以上（文責：関幸一）

=====
編集・発行：財団法人コンピュータ教育開発センター 関 幸一
メールアドレス： ekokuban@cec.or.jp
=====